

2008.7-2009.6 年次報告

わたしから始める、世界が変わる

68億人の1人である「わたし」から
何かをはじめるときに、
その輪が広がり、
世界が変わる



Japan International Food for the Hungry

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL 072-920-2225 FAX 072-920-2155
東 京 〒164-0012 中野区本町 5-10-5
TEL 03-3383-7611 FAX 03-3383-7510
愛 知 〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 2F
TEL 052-731-8111 FAX 052-731-8114
広 島 〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201号
TEL 082-831-1214 FAX 082-877-3961
沖 縄 〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201号
TEL 098-859-4585 FAX 098-859-4540

- 発 行 者 堀内 顕
 - 発 行 所 日本国際飢餓対策機構
 - 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- ※支援金は随時受け付けております。

<http://www.jifh.org/>

日本国際飢餓対策機構

飢餓対策ニュース 2009年11月号 No.232

目 次

ごあいさつ 理事長 堀内 顕	3
「共に生きる世界」を目指して 海外事業部 総主事 柳沢美登里	4
■ 海外活動	
インド	7
ルワンダ	8
エチオピア／カンボジア	9
バングラデシュ／フィリピン	10
中華人民共和国	11
ウガンダ／ボリビア	12
緊急援助から復興支援へ	13
世界里親会 こどもたちと地域の未来のために	14
海外駐在スタッフ派遣 共に生きる使節として	16
オリエンテーション・トレーニング、海外ワークキャンプ	18
■ 国内活動	
10月16日は「世界食料デー」	19
講演会、巡回活動／親善大使の働き	20
私にもできる国際協力	21
視聴覚教材（DVD・ビデオ・パネル・国際児童画・書籍他）	22
■ 支援活動一覧	24
■ 決算報告	26
■ 監査・支援者数	27
■ パートナー	28
■ 各事務所の働き	29
■ 日本国際飢餓対策機構とは	30

ごあいさつ

今年度（2008年7月～2009年6月）も飢餓や貧困と闘う人々への皆様の温かい愛の寄付金によって、私ども日本国際飢餓対策機構は、皆様の愛の手足として奉仕できましたことを心より感謝しております。

現在の飢餓人口は、過去最悪の10億人を突破し、世界人口68億といわれるこの地球上で、約6人に一人が根本的な人間の必要である食料を得ることができずに苦しんでいます。一握りの裕福な人々が富の多くを享受する世界で、目の前に食べる物があってもそれを買うことのできない人々がどれほど多くこの地球上に存在することでしょう。これは、飢餓と貧困の問題は決して先送りできない重要課題であることを語っています。

食糧価格は、今後、十数年をかけて30%～50%上昇すると言われています。また2050年までに環境破壊は一層深刻化し、世界の食糧生産量は現在の最大限25%が失われると言われています（国連環境計画）。すでに世界では食料争奪戦ともいえる熾烈な戦いが始まっています。それが「静かなる津波（Silent Tsunami）」となって、さらに飢餓と貧困にあえぐ人々を飲み込もうとしています。

この現実をしっかり受け止め、今一度、「善き隣人」として持てる物を分かち合い、飢餓と貧困に苦しむ人々と共に生きようではありませんか。私たち一人ひとりが始める小さな一歩は、必ず世界を変えていきます。日本国際飢餓対策機構は、皆様と共に世界の飢餓問題の解決に邁進していくことを使命として、さらに思いを新たにしております。

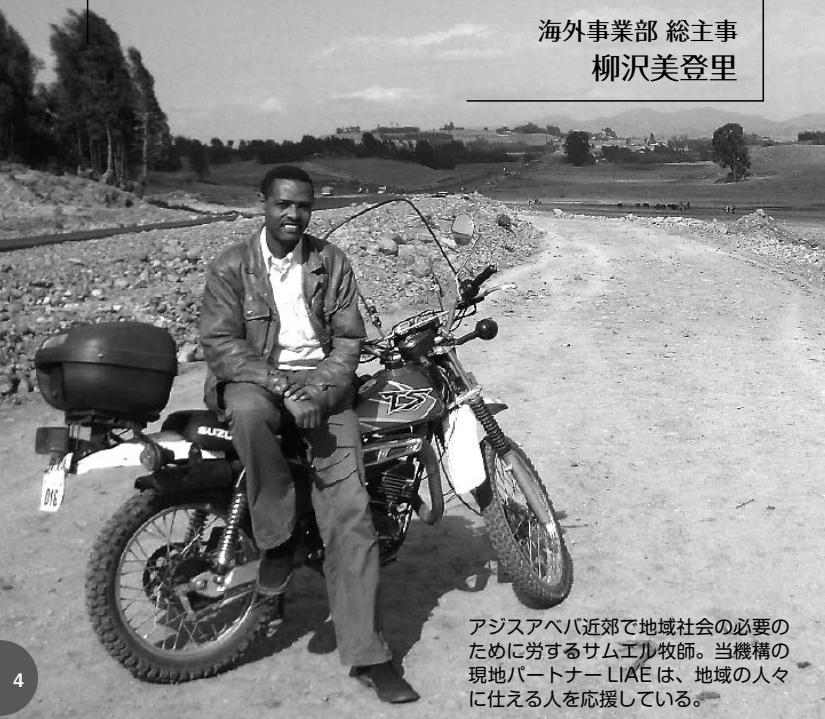
心からの感謝をもって、ここにこの1年の活動報告をお届けいたします。この一つ一つの働きは皆様の温かいお支えとご指導、また愛の結実です。飢餓と貧困との闘いは今後も緊急性をもって続けられていきます。これからも「わたしから始める、世界が変わる」ことを信じ、共に行動してまいりましょう。

皆様のご多幸と平安を祈りつつ。感謝をこめて。

日本国際飢餓対策機構 理事長 堀内 顕

現地リーダーのビジョンを応援し、学びあう 「共に生きる世界」を目指して

海外事業部 総主事
柳沢美登里



アジスアベバ近郊で地域社会の必要のために労するサムエル牧師。当機構の現地パートナーLIAEは、地域の人々に仕える人を応援している。

「過去」の学びから

日本国際飢餓対策機構が、日本の支援者の皆様と共に海外で飢餓と苦闘する方々に奉仕するようになって四半世紀以上が経った。その中で、私たちは多くの貴重な経験を積み重ねることができた。

1. 現地リーダーに与えられたビジョンを応援する

第一の学びは、現地を最も理解し、地域と国が次にどうなったらいよいよかというビジョンと確信を持っている地域グループリーダー、団体リーダーと働くことが鍵になるということだ。

私たちは、体裁のいいプログラム運営や外国のシステムを導入することを目的とした働きをしているのではない。地域の人々が、「自分も人を助ける隣人になっていく」という本来の姿に立ち戻るためのお手伝いをさせていただいているのだ。現地のリーダーた

インドのアシシ障がい児支援スクールにて。一人ひとりに与えられているユニークさが発揮され、地域社会にとってなくてはならない人となっていく。



ちに与えられたビジョンに近づくように手伝うサポーターであるという役割に徹することである。

2. 現地の資源、人財を最大限用いる

第二に、現地の人たちが持っている資源（リソース）を最大限に生かして、人が回復され、地域が改善されていくプログラムを応援することである。貧しさに苦闘する方々が、自分たちも様々なものを既に持っていてそれらが役立つこと、それを用いる能力があることを確認することで自信が回復されるのだ。善意ではあっても、相手の尊厳の回復を見失った海外からの支援は、自信喪失を植えつけてしまい、依存につながってしまうことを私たちは多くの失敗から学んだ。

3. 広がり続けるアプローチを支援

第三に、その場所にとどまってしまうようなアプローチではなく、地域や国の中で広がっていくモデル形成アプローチを応援することである。この基準を持たないと、お金をかければかけるほどよいものができると思い込み、自己満足に陥ってしまう。一日も早く、飢餓で苦闘する方々が世界からいなくなるように、私たちは、与えられた機会と資源を最大限に生かし、それがどんどん

海外での働き

からだの飢餓とこころの飢餓からの回復のために、世界各国で活動させていただきました。皆様の温かいご支援に感謝しつつ、その一部をご報告いたします。

インド

アシシ障がい児支援スクール（デリー）

障がいをもったこどもたちも「ユニークな個性と能力を持った、高価で尊い存在」であるという信念のもと、ギタ・モンドール氏が同校を設立。3年目を迎え、現在28人が学んでいます。各人に合ったカリキュラムと、生徒たちが尊い存在として扱われることにより、生徒や家族に大きな変化が現れるようになりました。



支援スクールの生徒と先生。ピクニックでの楽しいひととき

インド

女の赤ちゃんを守れキャンペーン（デリー）

インドの女兒中絶問題を知ったラージ・モンドール氏は、「インドの国が祝福されるため」に、芸術を通して性別を超えたいのちの大切さを訴える活動を始めました。2008年には、歌や絵画、大学での講演活動など、様々な形で啓発活動が行われました。



大学での講演の後、学生が作った啓発ポスター

「芸術を通して、インド社会の抱える問題や課題を、共に考え、解決していこう」インドでの取り組みは、二〇〇九年秋、日本に絵画がやってくることで、私たちにも広がった。



広がっていく道を選ぶことが大切であると学ばされた。

「共に生きる」世界を目指して

日本の皆様と共に、私たちが受けているチャレンジは、飢餓に苦闘する地域で、「からだの飢餓とこころの飢餓からの回復」というビジョンを持った現地のリーダーたちが、自らの資源を用いて、そのビジョンを実現できるように協力していくことである。そのためには、現地リーダーの見極め、現地で最もふさわしいプログラムの見極め、そして協力のための資源の適切な量と時期の見極めが欠かせない。

この困難な動きを前に、だからこそ、支援をしてくださる皆様と共に、まず私たちはこころを低くし、人間にカバーしきれない部分をも最善に補われるように祈りを合わせたいと願う。と同時に、私たちに与えられた知恵でこれだけ豊かなものを享受できるようになった日本だからこそ可能な分かち合いをすることで、助け合う世界をつくり上げていくことに皆様と共に貢献し続けたい。（柳沢）

インド

社会にインパクト！アートワークショップ（デリー）

芸術を通してインドの社会的課題を啓発しようと、ステファン・アイカー氏が2004年から始めたワークショップです。2008年のテーマは「男性と女性」。インド女性が直面する性差別、男女の性への正しい認識を伝えるために16名が参加しました。制作された作品は、今後、シンポジウムや学校などで年間を通して用いられています。



作品づくりに取り組む女性

ルワンダ

平和構築プロジェクト（カヨンザ）

1994年の大虐殺によって心と体に深い傷を負った人々の癒しと和解を目指す現地団体 REACH。当機構は特に、青年たちがスポーツに取り組むことを通して和解と一致を体験していけるように、サッカー場建設を支援しました。様々な背景をもつ青年たちが共に汗を流す姿は、地域に大きなインパクトを与えています。



新しくできたサッカー場でプレイする青年たち

エチオピア

ゆたかないのちの回復プログラム（アジスアベバ市内とその郊外）

現地 NGO「ライフ・イン・アバンドンス（LIAE）」と協働し、同じ貧困地域に住む者として隣人に仕える住民グループを支援します。メンバーは、地域の人々の必要に各々の方法をもって応え、共に支え合い、自立を目指しています。当機構は其中で特に、人々の収入向上と安定に繋がる活動の一部を応援します。（2009年7月開始）。

カンボジア

学校給食豆乳支援（ブノンベン）

貧困や親の理解不足などで学校を中退した子どもたちが、公立校に復帰できるように、現地 NGO「ハガル」はコミュニティ学習センターを運営。当機構は、そこに集う子どもたちの栄養改善と意欲向上のために、カンボジアでも馴染み深い、高栄養の豆乳給食を支援しています。2008年は257名が支援を受けました。



カンボジア

地域開発プログラム（オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡）



10年前までゲリラ組織クメール・ルージュの本拠地だったアンロン・ベン郡の9ヶ村において、農業、保健衛生、貯蓄活動を通して、村人が主体となって地域の課題を解決し変革していくことを目指しています。貯蓄活動では、利子を地域のために用いていくことに賛同した人々によって20グループが組織されました。

Bangladesh

家族と地域の変革プログラム（ダッカ近郊ゴノクトリ地区、ドゥムニ地区）

差別と貧困の中に生きる女性たちがグループをつくり、識字教育や貯蓄活動を通して、生活向上と共に、人としての尊厳の回復を目指しています。2地域で63グループ(990名)が活動中。今後グループが自立して活動していくために、「地域組織」の認定を政府に申請しました。

グループでの訓練会の様子



中华人民共和国

地域開発プログラム（雲南省ディーチン・チベット族自治州）

都市から離れた山岳地ヤンラー地区の「中心小学校」と、周りの山村に散在する6つの小規模小学校において、中心小学校校長との協力のもと、学校設備の拡充や学習環境の改善、寄宿舎で生活する生徒たちの生活環境向上に取り組んでいます。

新しく建て替えられた小学校の前に立つ生徒たちと先生



中华人民共和国

竹工芸指導者育成プログラム（雲南省昆明市）

2006年から昆明市でスタートした訓練会の最終年、10日間のトレーニングが行われました。7名の訓練生たちが4年間の集大成として作品をつくり、訓練の最後には、工芸品市場への参入の契機となることを願って展示会&即売会を開きました。その様子は報道され、今後の作品製作、販売への大きな励みとなりました。

講師の八木澤氏の手元を注視する訓練生



フィリピン

こどもと地域開発プログラム（ミンドロ島サンアンドレス）

こどもたちへの教育支援、マンヤン人への識字教育を中心に活動。教師が不足する地域小学校の現状を改善するために保護者と地域ボランティアが始めた補習授業に協力することで、こどもたちの留年率が大幅に減少しました。2009年後半からは、地域リーダー訓練会、収入改善プログラムなど開始予定。



地域の大人たちが協力して行う補習授業



新校舎の土台作り。2009年夏のワークキャンプ参加者もお手伝い

ウガンダ

小学校校舎建設支援（ムコノ郡ミソンバ地区）

ミソンバ小学校は、古くなった校舎1棟と、トタンとビニール屋根の仮教室がありました。しかし隣りのクラスの声や、時に雨漏りで授業が中断してしまうこともしばしば。そこで、4つの教室がある校舎建設を支援します。保護者や地域リーダーたちも建設に参加し、2009年中には完成予定です。

ボリビア

学校寮 & 学校給食支援（コチャバンバ州タバカリ郡チャヤ）

アンデス高地に住む子どもたちが、自然の厳しさや貧困を乗り越えて、将来への希望を持って勉強を続けることができるように、学校寮、学校給食、農業の面から支援しています。支援協力終了に向けて保護者や学校、地域政府が責任を担っていただけるように、運営を含めた様々な動きが移行されつつあります。



保護者と生徒たちが協力して学校給食を配布

緊急援助から復興支援へ

中国／四川省大地震・被災者緊急支援

2008年5月12日に発生した大地震によって40万人以上の方々が死傷した四川省成都、都江^{チェンドフ}堰^{ドゥジャンイ}など5地域に、2008年6月、8月、11月の3回にわたり、当機構スタッフを派遣。パートナー団体である国際飢餓対策機構・韓国や現地NGOヘイファー、現地ボランティアの方々と協力して、冬用衣料や食料品、蚊帳、絵本、学用品、寄贈された医療品などをお届けしました。また綿陽^{ミヤンヤン}市では育苗幼稚園の再建、什邡^{シフアイ}市では被災した敬老院に足温器や毛布などを支援させていただきました。



冬を迎える敬老院に毛布を運び込む

また2008年11月と2009年5月には、現地の韓中文化協会の協力により、当機構親善大使・森祐理さんによる「慰めと励ましのコンサート」を開催。その際には、震災で親を亡くし、進学が難しい生徒さんたち30人に奨学金をお渡しすることができました。



コンサートの後に子どもたちと
(中央：森祐理さん)

バングラデシュ／サイクロン「アイラ」被災者支援

2009年5月25日、バングラデシュ南部沿岸部をサイクロン「アイラ」が通過、50万人の方々が家を失いました。

当機構のパートナー団体・国際飢餓対策機構バングラデシュを通して、南部シャットキラ県の3つのコミュニティにおいて、緊急食糧パック、飲み水、経口補水用液パック、水の浄化タブレットを配布すると共に、次のモンスーン時に雨水を溜められるように、海水で汚染された16の池の水を排水するポンプを支給しました。



緊急食糧パック（レンズ豆、小麦粉、大豆油など）の配布

世界里親会

ウガンダ・ブントバ地区の子どもたち



子どもたちと地域の未来のために

世界里親会は、貧困の故に学校へ行くことのできない子どもたちへの教育支援と共に、健康や衛生面、さらに家族の自立、地域の共生のために活動しています。

現在、世界5カ国で活動を進めており、その中のひとつ、ウガンダのブントバ地区では2008年8月末、働きを地域に委ねることができました。

ウガンダ・ブントバ地区で支援終了!! ～働きを地域に委ねて～

1999年からの9年間に、192人の子どもたちが、里親の方々の支援によって基礎教育を受け、心身ともに成長していききました。また地域社会が子どもたちをケアできるように、保護者や地域の方々への様々な訓練が行われました。

保護者への教育意識向上トレーニングでは、保護者が、教育の重要性、こどもの育て方、保護者の役割を理解するようになり、こどもとの関係に大きな変化がみられるようになりました。保健衛生プログラムでは、感染症などの病気に関する意識が高まり、各家庭で病気の予防に努めるようになりました。また貯蓄トレーニングによって、お金や食糧を成り行きではなく計画的に消費するようにもなりました。

現在、人々は地域づくりに貢献しながら、次世代を担う子どもたちを学校へ送り、その成長を見守っています。

これから引き続き、応援をお願いします

◎ ウガンダ

活動地域：ムコノ郡ナマスンビ、キョガ、ミソンバ

今年度支援里子数：695人（内、2008年に支援終了したブントバの里子90人）

地域に住む人々は互いに協力し合い、こどもの教育について考え、その成長を支えています。また保健衛生の大切さを学ぶことにより、以前より病気になるこどもたちが減りました。

◎ ボリビア

活動地域：コチャバンバ州タバカリ郡チャヤ

今年度支援里子数：201人

学校での基礎教育の他に、農業訓練を通して、より実践的な学びの機会を提供しています。また栄養バランスの悪いこどもたちのために、給食プログラムも行われています。

◎ バングラデシュ

活動地域：マイメンシン地区ハリジャンバリおよびリシバラ

今年度支援里子数：595人

ハリジャンバリは2009年12月末、約20年間の活動を終了予定。現在、支援終了準備が進められています。これまで延べ1,300人以上の子どもたちが教育を受けることができました！

リシバラでは引き続き、こどもたちへの支援が続けられています。

◎ フィリピン

活動地域：マニラ近郊バリバラン

今年度支援里子数：375人

活動開始から4年、地域リーダーを中心に、これまで受けた訓練を活かしつつ地域開発や教育にさらに力を入れて取り組んでいます。その結果、こどもたち一人ひとりの能力や特性が引き出されていっています。

◎ カンボジア

活動地域：オドー・メンチェイ州
アンロン・ベン郡5地区

今年度支援里子数：428人

地域の人々は、こどもの教育だけではなく、農業、保健衛生、貯蓄プログラムなどの地域開発の働きにも積極的に取り組んでいます。このような取り組みが、こどもたちの全人的成長を助けています。



海外駐在スタッフ派遣 共に生きる使節として

飢餓・貧困と闘う地域の方々と共に生きる「励まし手」として、当機構の海外スタッフは派遣されています。今年度も多くの方々のご支援によって、12名のスタッフが8ヶ国で働きました。

□ 帰国スタッフ

★高橋ゆかり（エチオピア／プロジェクト・アドバイザー）

2006年2月～2009年6月帰国

現地 NGO「セーブ・ライブズ・エチオピア」と協働して、首都アジスアベバ市内の、特に貧困の中で子どもを抱えて働く女性たちが収入向上を図り、自信をもって生活していくことを支援しました。



★朝夷佳光（ウガンダ／世界里親会コミュニティ・プロモーター）

2006年3月～2009年4月帰国

ウガンダの農村部ムコノ郡において、世界里親会の働きを通して、子どもたちの全人的成長と、人々が地域社会の変革のために労していくことを支援しました。



★青山亜紀子（ウガンダ／人づくりプログラム・アドバイザー）

2008年7月～2009年7月帰国

* 2006年2月～エチオピア

支援終了後も人々がより良く生活していくためのプロジェクト調査・計画・提案・実行、パートナーの発掘などを行いました。



□ 2009年7月現在 海外駐在スタッフ

《カンボジア》	吉田真記、斉藤 満
《中華人民共和国》	中上幸三・敏子
《フィリピン》	酒井 保・慶子
《バングラデシュ》	島 幸晴（2009年8月帰国）
《ルワンダ》	竹内 緑
《ボリビア》	小西小百合

人が変わるとき、地域に希望が生まれる

ボリビア駐在スタッフ 小西小百合
（世界里親会および人づくりコーディネーター）

コモ エスタ ウステ？（お元気ですか？）私が活動するタパカリ郡チャヤは、アンデス山脈の標高 4,300 m に位置します。

地域には、先住民族の言語・アイマラ語とケチュア語しか話せない方も多く、小学校で勉強を受けた人々や子どもたちだけが公用語であるスペイン語も話せるという状況のため、現地語しか話せない方々との会議や訓練会では3つの言語が飛び交います。私はスペイン語を用いていますので、現地語がわからない時にはボリビア人同業者に通訳をしてもらいながら、また悪路を同業者のバイクで各村を訪ねながらの活動です。

この地域では、人々は何百年も前からほとんど変わらぬ生活をしています。農・牧畜業を営み、以前は野菜を食べる習慣も全くありませんでした。また子だくさんで、子ども、特に女子の教育に無関心な親が多く、子どもと家畜が同時に病気になった場合には家畜の治療費を優先するなど、子どもの人権を蹂躪する古い習慣がいまだに根強い地域です。このようなチャヤの人々に、命の尊さと、一人ひとりに与えられている素晴らしい潜在能力に気付いて頂き、子どもも大人も希望のある人生を歩み、地域が自立していくお手伝いをしたいと願って働きを続けています。また地域に仕える志がある人々（特に若者）が全人的に、よき働き人として成長できるように、一人ひとりと深く関わりながら働きを進めています。一人の子どもが、また青年が変わっていくとき、その地域に希望が生まれるのです。

（2009年6月）



オリエンテーション・トレーニング 海外で奉仕を目指す人のために

当機構を通して、海外パートナーと共に活動することを願う方々のみならず、世界の飢餓問題について関心のある方々にもご参加いただけるトレーニングです。

[第 27 回]

2008 年 8 月 11 日(月)～ 16 日(土)
グレース宣教会・紀勢会堂 (三重県)

参加者：8 名

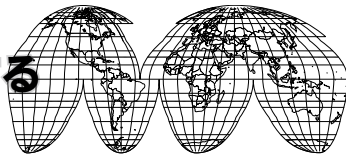
[第 28 回]

2009 年 3 月 16 日(月)～ 21 日(土)
東京キリスト教学園 (千葉県)

参加者：15 名



海外ワークキャンプ 見て、聞いて、体験する



★ 中国スタディキャンプ

日程：7 月 29 日(火)～ 8 月 12 日(火)

参加者：8 名

内容：雲南省北部ディーチン・チベット族自治州において、山奥の 4 つの村を訪問。学校に宿泊しながら、奨学金支援を受けている生徒をたずね、地域の方々と交流しました。



★ ボリビア・ワークキャンプ

日程：8 月 14 日(木)～ 29 日(金)

参加者：9 名

内容：アンデス山中タパカリ郡チャヤにおいて、世界里親会の活動地を訪問。いくつかの教会で必要とされているベンチやいす作りのお手伝いをしました。



★ インド&バングラデシュ・スタディキャンプ

日程：8 月 18 日(月)～ 30 日(土)

参加者：10 名

内容：インドでは、自閉症のこどもたちのために設立されたアシシ障がい児支援スクールで働きの理念を学び、教材づくりなどを行いました。バングラデシュでは、女性たちのグループ活動や世界里親会の働きを見学しました。



10 月 16 日は「世界食料デー」

～テーマは「迫り来る食糧危機」～

10 月 16 日は国連が制定した「世界食料デー」。この日をきっかけに、日本の私たちが世界の飢餓の現状を知り、自分の置かれた場所で飢餓解決のために具体的な一歩を踏み出すことを願って、毎年 9 月から 11 月、全国で講演や現地報告、一食募金などの呼びかけを行っています。

昨年は、各地の実行委員会との共催で 15 道・府・県 28 大会が開かれ、3,356 人の方々が足を運んでくださいました。また大会とは別に、ご家庭や学校、教会などからも多くの募金が寄せられ、大会と合わせて総額 20,726,630 円となりました。これらはバングラデシュの女性たちのグループ活動支援やボリビアの学校給食と学校寮支援などのために用いさせていただきました。

各地の大会では市民参加プログラムも多彩に

現地報告をする竹内緑スタッフ(ルワンダ駐在)



勢井美世スタッフ(元ヘルパー駐在)



飢餓の現状を伝える「足」として

～講演会・巡回活動～

日本国内では、講演・報告活動を通して啓発の働きに力を入れています。現地の写真や視聴覚教材を用いて飢餓・貧困と闘う方々の様子をお伝えすると共に、そのような世界の現状と日本の私たちの生活が無関係ではないこと、自分たちの日常生活の在り方を考え直し、分かち合う生き方への変革を願って、全国各地に足を運んでいます。今年度は延べ594回（集会458回、学校講演136回）の活動を行わせていただきました。



小中高校の先生方を対象とした国際教育セミナーにてワークショップも実施

歌を通して世界を変える

～親善大使の働き～

ゴスペルシンガーの上原令子さん、森祐理さんのお二人が、歌を通して飢餓啓発に取り組んでくださっています。

上原さんは、コンサートの中で私たちの働きをアピールしてくださると共に、エチオピアの人々への思いを込めてご自身が作詞作曲された2曲を入れたCD「ほんの少しのやさしさ」をリリース（2009年10月）。収益の一部は、当機構を通して飢餓・貧困と闘う方々の働きに用いられます。

森さんは、コンサートや講演活動でのアピールと共に、2008年11月、2009年5月の2回、中国四川省の大地震被災地において慰問コンサートを行い、歌による励ましを届けてくださいました。



上原令子さん



森祐理さん

私にもできる国際協力

◇ ラビング募金箱、地球型募金箱

～小さな分かち合いと感謝が集まって～

地球のどこかで十分に食べることのできない人がいることを思い、分かち合いの気持ちを小銭募金という形で表してくださいませんか。

個人やご家庭の食卓には、牛乳パックの形をした「ラビング募金箱」を、またお店、病院、会社、学校など人の集まる場所には「地球型募金箱」があります。ぜひご活用ください。



左右は紙バック型の募金箱、中央は地球型募金箱

◇ 書き損じはがきで海外駐在スタッフ支援

皆様からお送りいただいた書き損じはがきは、この一年間で12,059枚（547,014円）になりました。これらは、海外駐在スタッフ派遣を支える働きのために用いさせていただきました。

*なお、テレホンカード、古切手などはお預かりしておりません。

◇ ウェブサイト

～より迅速かつ的確な情報をお届けするために～

海外での働き、国内での催しをいち早くお届けすると共に、ウェブサイトならではの動画や楽しい工夫が満載。会員や募金申し込み、資料のお問い合わせなども簡単にできます。ぜひご覧ください。

<http://www.jifh.org/>



◀当機構ウェブサイトより

視聴覚教材をご利用ください

DVDは頒布のみ、ビデオ・パネル・児童画は貸出(無料)となります。頒布、貸出共に、送料のご負担をいただいております。貸出期間は、ビデオは2週間、パネル・児童画についてはご相談ください。

◆ DVD (頒布のみ)

- *いずれも頒布価格 各 1,000 円
- *「最新 DVD」以外はビデオでの貸出しも可能です。

★最新DVD・好評頒布中★

「平和への道～いやしと和解を通して(ルワンダ)」

(2009 年 / 19 分 / 小学校高学年以上 / 文部科学省選定 / ルワンダ大使館推薦)

「拉致された少女たち～いやしと自立が開く未来(ウガンダ)」

(2009 年 / 18 分 / 小学校高学年以上 / 文部科学省選定 / ウガンダ大使館推薦)

★飢餓、貧困への取り組みの変遷を知る!★

「世界の飢餓の現状と私たち」

*下記3本を収録

- ・「隣り人の叫び」(1986 年 / 16 分 / 小学校高学年以上 / 文部省選定)、「エチオピアの人々と共に」(1994 年 / 17 分 / 小学校高学年以上 / 文部省選定)、「世界の子どもたち」(2003 年 / 7 分 / 幼稚園、保育園児以上)

★教育支援活動の結実を知る!★

「愛が実を結ぶ時」

*下記3本を収録

- ・「明日輝くために」(1988 年 / 17 分 / 小学校高学年以上 / 文部省選定)、「翔べアンデスの子よ」(1990 年 / 19 分 / 小学校高学年以上 / 文部省選定)、「愛が実を結ぶ時」(1999 年 / 17 分 / 小学校低学年以上 / 文部省選定)

◆ ビデオ・アーカイブ (貸出用)

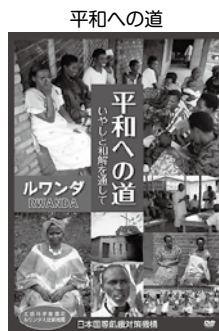
当機構の活動当初からの映像です。当時の飢餓の状況や活動の様子をご覧ください。

【自立開発協力について】

- ・「共に生きる」(1988 年 / 18 分 / 小学校高学年以上 / 文部省選定)
- ・「極貧のアンデスから」(1990 年 / 20 分 / 小学校高学年以上 / 文部省選定)
- ・「南のおともたちのために」(1990 年 / 16 分 / 幼稚園、保育園児対象 / 文部省選定)
- ・「山岳ラオと共に」(2002 年 / 19 分 / 小学校高学年以上 / 文部科学省選定)

【日本国際飢餓対策機構のこれまでの動きについて】

- ・「私たちの動き」(2001 年 / 21 分 / 小学校高学年以上)



平和への道



拉致された少女たち

◆ パネル (貸出用)

写真やイラストを交えた「飢餓について」「世界のこどもたちの現状」「世界の水問題について」などのパネルの他、まんがパネルもあります。

◆ 国際児童画 (貸出用)

アジア、アフリカ、中南米の十数カ国の活動地のこどもたちが、テーマに沿って描いたものです。テーマは「私の大切なもの(2007 年)」「もし、私が…だったら(2008 年)」「家族のためにできること(2009 年)」などです。1 セット 80 枚前後で貸出ししています。



2009 年の作品

◆ その他 / カレンダー、書籍

●国際協力カレンダー「地球家族」

世界各国に生きる人々の喜びや課題を、写真で月ごとに紹介していきます。2009 年版のテーマは「彩り」、2010 年版のテーマは「環境」です。世界 6 カ国の NGO による共同制作。26 × 36cm / フルカラー / 1 部 1,000 円で頒布



◀ 2010 年カレンダー
▼ 絵本「ゴンドールのやさしい光」



●絵本「ゴンドールのやさしい光」(日英対訳)

1985 年のエチオピア大飢饉のときに、貧しいおじさんがとった行動とは…。本当の愛とは何かを共に考えませんか。こどもから大人まで、どの世代へのプレゼントにも好適です。

発行：自由国民社 / 絵：葉 祥明 / 文：みなみななみ / 1 冊 1,600 円で頒布 (韓国語版、中国語版も出版。またスペイン語版 DVD もあります。)

●まんがで学ぶ開発教育「世界と地球の困った現実」

「世界には食べ物がないの?」「食べ放題のぼくたち」など、みなみ君と一緒に飢餓・貧困・環境などの問題をわかりやすく学べます。

発行：明石書店 / まんが：みなみななみ

編：日本国際飢餓対策機構 / 1 冊 1,000 円で頒布



貸出用パネル (A2 版)



支援活動一覧

アジア	
バングラデシュ	15,158,084
家族と地域の変革プログラム（ダッカ近郊ドゥムニ地区、ゴノクトリ地区） WFD	5,169,909
世界里親会（マイメンシン地区ハリジャンパリ、リシバラ）	7,933,974
海外駐在スタッフ／島 幸晴 支援	2,054,201
カンボジア	16,053,813
地域開発プログラム（オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡） WFD	2,219,677
止水壁プロジェクト（オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡）	289,860
世界里親会（オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡）	7,703,721
学校給食豆乳支援（ブノンベン）	1,800,091
海外駐在スタッフ／吉田真記 支援	2,030,581
海外駐在スタッフ／斉藤 満 支援	2,009,883
インド	5,271,556
社会にインパクト！アートワークショップ（デリー）	196,640
女の赤ちゃんを守れキャンペーン（デリー）	2,186,680
アシン障がい児支援スクール（デリー） WFD	1,523,096
地域開発プログラム（ウッダル・ブラデシュ州東部） WFD	1,365,140
中華人民共和国	7,054,706
地域開発プログラム（雲南省ディーチン・チベット族自治州） WFD	1,230,000
竹芸指導者育成プログラム（雲南省昆明市）	2,539,179
国際児童画展準備費	2,906
海外駐在スタッフ／中上幸三・敏子夫妻 支援	3,282,621
フィリピン	880,368,718
こどもと地域開発プログラム（ミンドロ島サンアンドレス）	3,343,848
世界里親会（マニラ近郊バリバラン）	6,754,013
里子の奨学金	52,933
移動図書館整備事業（ブラカン地区）	754,698
医薬品寄贈およびその輸送費（ナガ）	863,432,400
海外駐在スタッフ／酒井 保・慶子夫妻 支援	6,030,826
タジキスタン	6,206,768
学校机といすの寄贈およびその輸送費（ドゥシャンベ）	6,206,768
アジア合計 930,113,645	
アフリカ	
ウガンダ	19,403,414
世界里親会（ムコノ郡ナマスンビ、キョガ、ミソンバ、ブンタバ）	12,925,869
小学校校舎建設支援（ムコノ郡ミソンバ） WFD	975,100
WATOTO プロジェクト	52,100
海外駐在スタッフ／青山亜紀子 支援	3,338,546
海外駐在スタッフ／朝夷佳光 支援	2,111,799
エチオピア	40,318,229
ゆたかないのちの回復プログラム（アジスアベバ市内とその郊外） WFD	1,365,140
女性の能力開発プロジェクト（アジスアベバ） WFD	1,543,166
ベッド、車いす、手術用品など医療用具寄贈およびその輸送費（ナカムテ）	34,874,060
海外駐在スタッフ／高橋ゆかり 支援	2,535,863
ルワンダ	5,875,286
平和構築プロジェクト（カヨンザ） WFD	3,794,870
海外駐在スタッフ／竹内 緑 支援	2,080,416
タンザニア	266,496
幼児教育プロジェクト支援（ザンジバル）	266,496
ジンバブエ	7,651,706
缶入りパンおよびリネン類（タオル、シーツなど）寄贈およびその輸送費（ハラレ）	7,651,706
アフリカ合計 73,515,131	

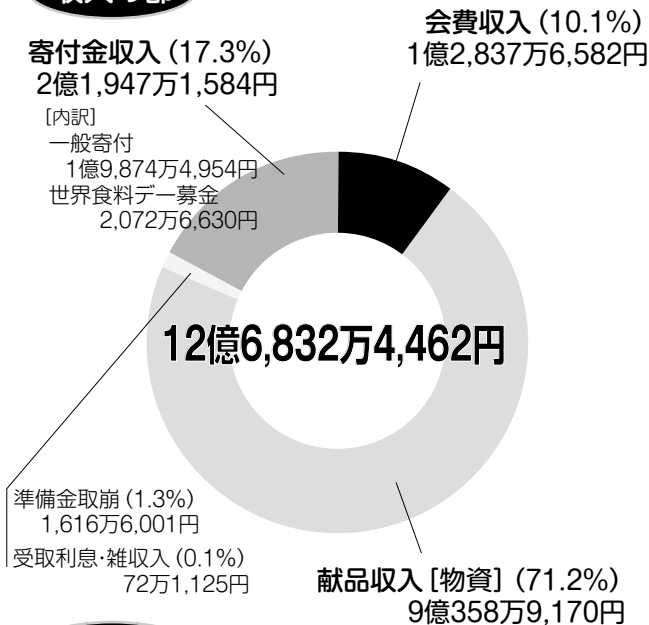
支援活動一覧

中南米	
ボリビア	7,545,325
学校寮＆学校給食支援（コチャバンバ州タバカリ郡チャヤ） WFD	1,506,705
世界里親会（コチャバンバ州タバカリ郡チャヤ）	3,500,957
地域の自立支援（ベンチ、机、イスなど備品整備）（同上チャヤ）	344,410
海外駐在スタッフ／小西小百合 支援	2,193,253
中南米合計 7,545,325	
海外緊急援助	
中国 四川省大地震被災者緊急支援	7,688,412
ミャンマー サイクロン「ナルギス」被災者緊急支援	2,181,600
バングラデシュ サイクロン「アイラ」被災者緊急支援	196,440
エチオピア ロボット幼稚園給食支援（アジスアベバ） WFD	230,000
海外緊急援助合計 10,296,452	
国内援助	
新潟中越沖地震 復興援助	39,466
愛知在日ブラジル人給食支援	25,452
国内援助合計 64,918	
その他	
国際飢餓対策機構サービスセンターの働きのため	3,045,700
国際飢餓対策機構連合 プログラム運営管理費	3,154,560
ハンズ・オブ・ラブ・アメリカ協力金	4,743,043
国際飢餓対策機構・韓国を通してガザ地区支援	32,412
ビジョン・オブ・コミュニティ・フェローシップ協力金	1,951,200
指導者育成プログラム	964,700
海外プロジェクト担当／柳沢美登里 支援	3,438,365
海外プロジェクト担当／森田哲也 支援	3,872,698
元ボリビア駐在＆国内事務所勤務／河合朝子 支援	1,157,802
元ペルー駐在＆国内事務所勤務／勢井美世 支援	2,951,288
元中国駐在スタッフ／星野公寛・尚子夫妻 支援	946,938
陣内 俊（キングダム・コンソーシアム）支援	3,431,957
その他合計 29,690,663	
支援合計 1,051,226,134	

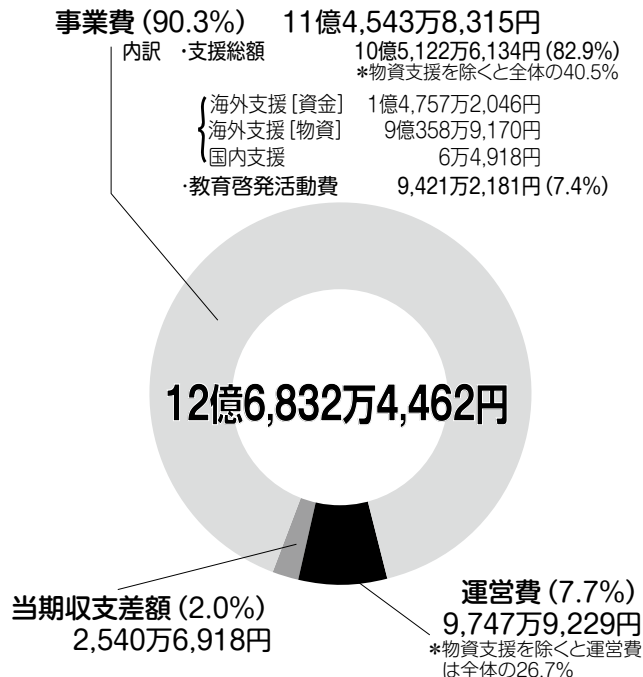
＊数字の単位は全て円です。
 ＊現地駐在スタッフの支援金には、年金・海外旅行傷害保険などを含んでいます。
 ＊**WFD**の印のついたプログラムの一部には、2008 年度の世界食料デー募金が充てられました。

決算報告

収入の部



支出の部



監査・支援者数

監査報告書

日本国際飢餓対策機構
理事長 堀内 顕 殿

私たち、監事 舟橋 弘 および 朝倉 章の両名は、
日本国際飢餓対策機構の2008年7月1日から2009年6月30日までの
第27期会計年度における財産増減計算書および貸借対照表を
監査いたしました結果、適法かつ正確であることを認めます。

2009年7月29日

監事 舟橋 弘
監事 朝倉 章

〔支援者数内訳〕

※ 2008年7月～2009年6月の募金受付分
※ 各項目の重複支援者あり

総支援者数 8,710 名
(内：個人 5,679 件、団体 3,031 件)

- ◆ JIFH 会員 1,456 名
(内：個人 1,366 件、団体 90 件)
- ◆ 世界里親会会員 1,575 名
(内：個人 1,345 件、団体 230 件)
- 賛助会員 610 名
(内：個人 525 件、団体 85 件)
(里子数：2,294 名)
- ◆ 各海外スタッフ支援として 971 名
(内：個人 746 件、団体 225 件)
- IVS 会員として 250 名
(内：個人 163 件、団体 87 件)
- ◆ 一般支援者 6,517 名
(内：個人 3,150 件、団体 3,367 件)

パートナー

～世界 122ヶ国に広がる働きの輪～

日本国際飢餓対策は、一人の日本人がラリー・ワード博士（国際飢餓対策機構・創設者）の励ましを受け、インドシナ難民支援に参加、帰国後の 1981 年、日本で活動をスタートさせたことで始まりました。その後、1983 年に理事会をもつ組織団体となりました。

以来、国際飢餓対策機構（Food for the Hungry International）と協働して、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、国内での啓発活動などを行う広がりをもつようになりました。

国際飢餓対策機構は 2006 年、活動以来 35 年を経て新しく組織変革を行い、各協力団体の理念が一層活かされるような協力体制として、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）が立ちあげられました。

当機構も 2006 年 12 月からその一員となり、現地団体との共生的協力や、他の国際協力団体との協力活動が更に広がっております。

現在、16ヶ国 39 の協力団体が、アジア、アフリカ、中南米の 122ヶ国で「こころの飢餓とからだの飢餓」に応える働きを進めています。

各事務所の働き

～お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください～

開発途上国と呼ばれる国々で、また日本において、地域社会に変革をもたらそうとしている方々と協働して、こころの飢餓とからだの飢餓の解決のために活動しています。

◆ 大阪事務所

☎072-920-2225

（八尾市弓削町 3-74-1）

1983 年、都島に事務所を開設以来、3 度引っ越しをして、2004 年 9 月に現在の場所となりました。支援者の方々のご質問にお答えする支援者サポートセンターはじめ、世界里親会、国内啓発、広報企画、財務などの働きの拠点となっています。

◆ 広島事務所

☎082-831-1214

（広島市安佐南区緑井 2-21-23-201 号）

2001 年 6 月設立来、中四国 9 県を中心に啓発活動をおこなっています。「平和都市・広島」に事務所を構える団体として、地域での平和構築の働きにも協力しています。

◆ 東京事務所

☎03-3383-7611

（中野区本町 5-10-5）

1981 年、団体発足と同時に開設した事務所です。1989 年に現在の場所となりました。

国内啓発の働きを中心に、海外事業部、国際人財部、キングダム・コンソーシアムがおかれています。

◆ 愛知事務所

☎052-731-8111

（名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F）

2005 年「愛・地球博」地球市民村への出展を契機に、2007 年 1 月に開設。東海地域の方々、特に若い世代の方たちに世界の現状を知っていただき、行動につなげていただくために、様々な催しを通して活動しています。

◆ 沖縄事務所

☎098-859-4585

（那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号）

県下数ヶ所で行われる世界食料デー大会の働きをはじめ、学校講演などの地域啓発を続けています。2009 年 8 月、那覇市の中心部にある新事務所に移転しました。

日本国際飢餓対策機構とは

【沿革】

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH）は、非営利の民間国際協力団体（NGO）です。1981年にひとりの日本人がインドシナ難民救援から帰国したのを契機に活動を始めました。以来、アジア、アフリカ、中南米の開発途上にある国々で、現地のパートナーを尊重し、互いに成長しあう協力関係を築きながら、人々のからだの飢餓とこころの飢餓の解決のために働いています。

日本国際飢餓対策機構の目指すものは…

- ・人々の生活の基本的必要が満たされること
- ・人々が、自分の可能性を信じて、希望をもって生き、隣人を愛する人となっていくこと
- ・共に分かち合い助け合う共生社会が広がっていくこと

始められることが、たくさんあります

- ・世界の飢餓の現状を知る！伝える！
- ・自分の生活を具体的に変える！シンプルライフを目指す！
- ・飢餓・貧困と闘う現地リーダーを応援する！会員となって活動を支援する！

❑ 会員制度および支援について

全活動は支援者の皆様お一人お一人の定期的な会費、随時の募金によって支えられています。

● JIFH 会員／毎月一口 500 円から

私たちの飽食の暮らしを見直し、何かを節約した中からご支援いただくことで、「共に生きる」運動を広げます。会費は、JIFH の活動全般のために用いさせていただきます。

● 世界里親会

□ 世界里親会会員／里子一人の支援につき月額 4,000 円

開発途上国に生きるこどもたちの全人的成長のために、教育支援のみならず、家族やコミュニティも支援します。

□ 里親賛助会員／毎月一口 500 円から

里子は指定されませんが、世界里親会の活動全般を支援していただきます。

● 海外駐在スタッフ支援／毎月自由額から

各国で活動する海外駐在スタッフを指定して支援していただきます。

● 海外ボランティアスタッフを支える会（IVS）／毎月一口 1,000 円から

スタッフを特定せず、海外スタッフ派遣の活動全般を支援していただきます。

● 一般寄付について

「今回だけ」「できる時に自由額で…」「特に募金の指定先はない」そのような場合は「一般寄付」とご指定ください。その時点で最も必要のある活動のために用いさせていただきます。

● 指定寄付について

募金使途先（国、プロジェクト）を指定していただけます。

※機関紙について

会員の方々へは、当機構機関紙「飢餓対策ニュース」（毎月発行）をお送りいたします。機関紙の購読料は会費に含まれています。お申し出いただければ賛同者の方々へもお送りいたします。

■ 顧 問

泉田 昭、岡村又男、金子純雄、野武興一、山森鉄直

■ 理 事

堀内 顕（理事長）、墨 鉦平（名誉理事）、岸 好美（副理事長／運営担当）
倉沢正則（副理事長／経理担当）、拝高真紀夫、木村雄二、崔 信義
赤江弘之、岩橋竜介、有江 健（常務理事※ 2009 年 8 月末まで）

■ 評議員

鍛冶 勉、栗原延元、大内秀子、福井文彦、塚田泰司、川口昌英
古波津保秀、佐々木保雄、林 茂宏、藤崎秀雄、野口富久、加藤光行
大村裕康、小林啓一、リディア・ハンキンス、佐多洋明、池原信徳

■ 監 事

舟橋 弘（公認会計士）、朝倉 章（顧問税理士）

■ 海外駐在スタッフ（2009 年 7 月現在）

【カンボジア】 吉田真記、斉藤 満

【中華人民共和国】 中上幸三・敏子

【フィリピン】 酒井 保・慶子

【バングラデシュ】 島 幸晴（2009 年 8 月帰国）

【ルワンダ】 竹内 緑

【ボリビア】 小西小百合

★特別講師 八木澤 正・洋志

（竹工芸技術者として毎年、中華人民共和国へ派遣）

■ 職 員

【大阪事務所】

〈日本事業部〉

・支援者サポートセンター

山本和弘（事務／世界里親会総主事）、小田 篤（世界里親会担当）、長久愛子（世界里親会担当）鍛冶嘉美（事務担当）、藤谷 誠（事務担当）、中井佐起子（事務担当）

・国内啓発課

勢井美世、申 シン オクチョル、姜 カン ヘウワン 玉澈、姜 恵媛（協力スタッフ）

・広報企画課

西本玲子（主任）、鶴浦弘敏、伊藤えみ子、西川和子

〈財務部〉

高橋献一（総主事）

〈国際人財部〉

松島育子

〈フェアトレード推進準備室〉

向頭要一、富浪貴志

〈特別顧問〉

有江 健、西川真一（補佐）

【東京事務所】

柳沢美登里（海外事業部総主事）、森田哲也（国際人財部総主事）

須山弘子（国内啓発課主任）、奥村いずみ、半田智英子

神田英輔（特命大使／キングダム・コンソーシアム）、陣内 俊（キングダム・コンソーシアム）

辻本清臣（特別顧問）

【愛知事務所】

清家弘久（国内啓発総主事）、小島亮子、吉田 愛

【広島事務所】

田村治郎（国内啓発総主事）、仲島涼子

【沖縄事務所】

太田留美子（事務所主任）